

パブリックコメント等の主な意見		反映の方向性(案)		
項	目	意見要旨		
1. 長期ビジョンの評価に関するもの	実現を疑問視する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・帰還の見通しさえ立たない中での町の将来像は机上の空論でしかないとの意見 ・現状を踏まえると、自分達、子供達の世代が帰って住むことができる土地になるとは思えないとの意見 ・町に戻る人は少数であり、人口が減少する中で、町を再興することができるのかとの意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・「長期ビジョン策定の意義」において、「町の復興は実現しなければならないもの」であるとの考え方をより明示的に記載し、町民の理解を深めていってはどうか。 ・「今後の進め方」において、国、県へ町の復興の実現のために必要な取組や、その工程を具体的に明示することを求めていく旨を記載してはどうか。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・町に戻りたいと思っている人はどのくらいいるのかとの疑問 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年11月に実施した双葉町住民意向調査結果を長期ビジョンの参考資料として掲載するとともに、「長期ビジョンの策定の意義」等において、意向調査結果では「戻らないと決めている」が減少し、「戻りたいと考えている」「まだ判断がつかない」という人が増えている旨を記載してはどうか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の安全確保を徹底することや、廃炉作業の早期終結を求める意見 		<ul style="list-style-type: none"> ・「双葉町の復興を巡る厳しい現実」において廃炉の着実な実施を求めているが、「帰還・復興に向けた考え方」において、廃炉措置の安全が帰還の前提であり、安全確保協定※に基づき、国や東京電力に廃炉の安全確保を強く求めていくことをより明示的に記載してはどうか。 <small>※平成27年1月7日に、新たに「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉等の実施に係る周辺地域の安全確保に関する協定」を福島県、大熊町・双葉町、東京電力との間で締結しました</small>
		<ul style="list-style-type: none"> ・中間貯蔵施設が建設されれば帰還できないとの意見、中間貯蔵施設の近くに復興拠点を整備するのは現実的ではないとの意見 		<ul style="list-style-type: none"> ・町の中間貯蔵施設建設受入判断を受けて、長期ビジョンにおいても、福島第一原子力発電所の廃炉措置の安全確保と並んで、中間貯蔵施設の施設及び輸送の安全確保が帰還の前提であり、その取組を国に強く求めていくことを「帰還・復興に向けた考え方」において、記載してはどうか。
2. 帰還・復興の安全に関わる意見		<ul style="list-style-type: none"> ・放射線量が低減することを疑問視する意見や、放射線量による健康被害を心配する意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・「双葉町の復興を巡る厳しい現実」において除染の着実な実施を求めているが、「帰還・復興に向けた考え方」において、除染の早期かつ着実な実施に加え、放射線モニタリングや健康管理体制構築等の安全対策を実施していく旨をより明示的に記載してはどうか。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な取組よりも、町民が早期に生活再建できるような短期的な取組を優先すべきであるという意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・「長期ビジョンの策定の意義」において、復興まちづくり計画（第一次）に記載の通り、「人（町民）の復興」と「町の復興」の二つがそろって、初めて「双葉町の復興」となり、今後も町民一人一人の生活再建と町の復興は両輪で進めていくべきものである旨を明示的に記載してはどうか。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・町外における生活再建の充実を求める意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的な取組については、長期ビジョンではなく、当面の課題として取り扱うこととしてはどうか。 	
町民一人一人の生活再建に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先における医療の充実、特別養護老人ホームなどの福祉施設の整備を求める意見 			
税制の優遇・賠償の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国への相続税の優遇や東京電力へのさらなる賠償の充実を求める意見 			
3. 町外における生活再建の充実を求める意見	県外避難者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・県外においても復興公営住宅の整備を求める意見 		

パブリックコメント等の主な意見		意見要旨	反映の方向性(案)
項	目		
4. 期間の明示を求める意見		<ul style="list-style-type: none"> 復興まちづくり長期ビジョンの実現に向けた具体的なスケジュールの明示を求める意見 	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告では「復興まちづくり長期ビジョンの実現に要する期間は、放射線量の減衰の見通し、除染の見通し、福島第一原子力発電所の廃炉の見通し、中間貯蔵施設の動向など町単独で見通しを検討する範囲を大きく超えています。そのため、まず、町民が理想とする町の将来像をとりまとめ、逆にこの理想とする将来像を実現するまでの期間を国・県に明示させるよう取り組んでいくことが適切と考えます」とされている。この考え方を超えて、具体的なスケジュールを委員会として示すことは難しいのではないかと。 一方で、津波被災地域については、町沿岸部の海岸堤防の整備（県事業）は平成30年度、海岸防災林の整備（県事業）は平成32年度の完成という目標が示されている。こうしたことから、「町内復興拠点の段階的な整備イメージ」等において、津波被災地域の概ねの整備スケジュールを記載し、短期的な取組のスケジュールを明示してはどうか。例えば、両竹・浜野地区の避難指示解除準備区域の復興産業拠点等の整備を主体とした「復興着手期」の取組は、5～10年程度を整備目標にすることも一案と考えられるがどうか。
5. 町内復興拠点への意見	町内復興拠点への各種提案	<ul style="list-style-type: none"> 町内復興拠点の整備に向けた「町内での取組」への内容に関わる具体的な事業の提案等の意見については、現段階で具体的な事業を決定する熟度にはいたっていないことから、それぞれの事業を具体化していく検討の中で、取り扱っていくこととしてはどうか。 一方で、中間報告に記載されていない以下のような視点については、反映する必要があるのではないかと。 	
	周辺市町村との連携	<ul style="list-style-type: none"> 隣接町村や双葉郡全体で連携しながら復旧・復興を進めていく必要があるとの意見 	<ul style="list-style-type: none"> 「今後の進め方」において、国による「福島12市町村の将来像に関する有識者検討会」の検討内容を注視していくことや、双葉郡としての広域連携に関する議論を喚起していくこと、町としての広域連携への取組を推進していくことを記載してはどうか。 ※平成26年12月に、復興庁において「福島12市町村の将来像に関する有識者検討会」を設置し、福島12市町村の中長期かつ広域的な視点での将来像を作成することとなっています
	インフラ等の整備	<ul style="list-style-type: none"> スマートタウン構想（新技術・新エネルギーのまちづくりへの活用など）の導入を求める意見 	<ul style="list-style-type: none"> 「新市街地ゾーン」の整備の方向性等において、ITや環境技術などの先端技術を駆使して町全体の電力の有効利用を図るなどの環境配慮型都市を目指す旨を記載してはどうか。
	双葉町とのつながりの維持	<ul style="list-style-type: none"> 町に帰ることができる日が来ても、生活の場を双葉町に移せない人や里帰りのための実家がなくなった町民のための宿泊施設の整備を求める意見 	<ul style="list-style-type: none"> 「町内復興まちづくりの段階ごとの取組」等において、町民が一時宿泊できる施設の整備を行う旨を記載してはどうか。
	記憶の継承	<ul style="list-style-type: none"> 新たなまちづくりにより景観が変わってしまうと古き双葉町を継承できないのではないかととの意見 	<ul style="list-style-type: none"> 「復興まちづくりの目標」等において、新たなまちづくりや既存中心市街地の再整備において古き双葉町の街並みや風景を継承する取組を行っていく旨をより明示的に記載してはどうか。
6. 今後の進め方に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> 住民意向調査の計画的・継続的な実施、及び調査結果の的確な反映を求める意見 学校等におけるワークショップの実施等、未来の双葉町を担う若い世代に、復興について考える機会を多く提供する必要があるのではないかととの意見 	<ul style="list-style-type: none"> 「今後の進め方」において、継続的に意向調査を行う旨を記載してはどうか。 「今後の進め方」において、町立学校等における子どもたちの活動の充実や、「ふたばしゃべり場」等を活用し若い世代の意見をまちづくりに反映していく旨を記載してはどうか。